

EHS活動の目標と実績

東京エレクトロングループではEHS活動目標を設定し、グループ全体でEHS活動を推進しています。

EHS活動目標と2006年度実績

	活動項目	2006年度達成目標	実施結果	評価	2007年度以降の計画、目標	関連するページ
EHSマネジメント	EHS相互監査の実施	サプライチェーンを含めた事業所間でのEHS相互監査を実施	1事業所においてサプライチェーンの項目を追加し実施、発見した指摘事項を是正した	○	継続して監査を行っていく	P.17
製品における環境への取り組み	装置の省エネルギー化	TELOロードマップ*指標の達成	既存装置への反映を進めた 300mm製品：2007年度目標を前倒して6製品中2製品達成した	△ ○	2007年度、2010年度目標の達成	P.20-21
	装置に含まれる規制化学物質対策	対策すべき化学物質と方針の明確化	RoHS指定6物質の製品からの全廃スケジュールが確定した	○		
事業所における環境への取り組み	省エネルギーの推進	エネルギー使用量の削減(省エネ法に基づき、CO ₂ 発生量ベースで売り上げ原単位比1%削減)	2005年度と比較して売り上げ原単位比約17%削減でき、目標を達成した 荷主に関する物流量の把握を行った	○	継続してエネルギー使用量の削減を行う、物流に関するエネルギー把握の正確性をあげる、モーダルシフトの検討・採用を進める	P.26
	廃棄物の削減	製造系事業所でのゼロエミッション継続	1事業所を除き製造系事業所でゼロエミッションを達成した グループ全体のリサイクル率は、昨年と同等の高水準で推移	△	ゼロエミッションを継続する、廃棄物総量の削減を検討する	P.28
	化学物質の適正管理	—	PRTR対象化学物質の使用量、排出先を把握した	—	データ把握を継続する	P.29
健康・安全	人身災害事故の削減	休業4日以上的人身災害0件、人身事故の件数を昨年度より30%削減する	休業4日以上は数件発生、度数率は2005年度より減少、人身事故件数は約20%の増加	×	人身事故の件数目標は2006年度目標を継続、人間工学的事故を2006年度比25%削減	P.30

*TELOロードマップ：当社グループ製品に関する環境対応の方針・計画

○目標達成 △目標の80%を達成 ×目標の80%未満の達成 —目標設定していない項目



**変革は日々の改善の延長線ではありません。
さらに高い次元の革新的な目標を掲げて省エネルギー化を推進していきます。**

東京エレクトロン株式会社
取締役 副社長 兼 開発・製造本部長
岩津 春生

現在、様々な次世代機の開発を進めており、2007年度は次世代製品がかなり出揃う予定です。私は、「夢の次世代機でものづくり改革を」を合言葉にして、日々の改善とは異なる高い次元の目標を設定して、革新的な装置をつくらうと社内に呼びかけてきました。

これまでも装置のエネルギー使用量削減には力を入れてきましたが、次世代機では、環境性能を飛躍的に高めることが求められます。一方エネルギー使用量削減のカギを握るのは装置自身の省エネルギー化だけでなく、半導体の歩留まり性能の向上が大きいと考えています。このことは環境性能の向上が大きいと一見異なることのように思われますが、歩留まりの向上こそ、半導体製造プロセスの無駄を省き、全体の効率

化を促す最大のものであると考えます。

また、省エネルギー化や省資源化など環境に配慮した製品はお客様に高く評価されるようになってきました。社内の各部門でも、開発段階から環境の視点を取り入れることが当たり前となり、あえて目標設定をしなくても自然と取り組める風土も確立されてきています。

一方、製造拠点の環境づくりという面で、宮城県の大和町に新たに建設する工場では、本来の自然を残し、できるだけ自然と共生した工場にしようというコンセプトのもとデザインを検討しています。

2006年度は、当社グループにとって大きな成長の年となり、これまでのピークを大きく超えて過去最高の業績を達成しました。このような状況のなか、従業員は納期などに追われて残業が多くなりがちです。しかし、長時間労働が慢性化した職場環境では創造的な仕事はできません。短時間で仕事を片付ける習慣づくりを徹底して残業時間の短縮も目指しています。